

8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

東京各種新聞



末いれごと約束はゆがまて切てとかりけ
 起説飛ぎ神うけを浴と氣よあをんで居る處か
 金つひあかのうで其筋くつとやまれ召捕まて
 るとされと高島町の一件とのとら白状をいへ
 さらたて雲井の被収あつりにはるまてあつて
 品も大切うて手ゆらとあは真の当坐のまわりで直かされて
 きんすぢらうとあつてわくらあつてとびーさ

朝の雨互う
 ぬれと相かれよ
 雲井の心
 もうんの空

日も迷つたけの
 狐の調音



狐の調音

狐の調音

狐の調音

○横濱高島町の
 貸坐敷神風樓(山下茶壺
 の雇人伊豫國今治町廣瀬忠平の
 次男信助(廿六)との奴の九月十九日の晩
 びつらやまん
 初會の夜で軍艦の士官たたらふ
 白濱志の山と二人、遊興の最中白濱
 某の懷中物ッ紛失、一のを主人
 からお届とるうて神風
 だも其筋(わび)出れ
 りりお調(わび)の一向
 左様な事、無とせ五日
 のひ立ちをせ日信助、実兄か
 東京くの濱(さて)國(か)あつて見送の

○横濱高島町の
 貸坐敷神風樓(山下茶壺
 の雇人伊豫國今治町廣瀬忠平の
 次男信助(廿六)との奴の九月十九日の晩
 びつらやまん
 初會の夜で軍艦の士官たたらふ
 白濱志の山と二人、遊興の最中白濱
 某の懷中物ッ紛失、一のを主人
 からお届とるうて神風
 だも其筋(わび)出れ
 りりお調(わび)の一向
 左様な事、無とせ五日
 のひ立ちをせ日信助、実兄か
 東京くの濱(さて)國(か)あつて見送の

○横濱高島町の
 貸坐敷神風樓(山下茶壺
 の雇人伊豫國今治町廣瀬忠平の
 次男信助(廿六)との奴の九月十九日の晩
 びつらやまん
 初會の夜で軍艦の士官たたらふ
 白濱志の山と二人、遊興の最中白濱
 某の懷中物ッ紛失、一のを主人
 からお届とるうて神風
 だも其筋(わび)出れ
 りりお調(わび)の一向
 左様な事、無とせ五日
 のひ立ちをせ日信助、実兄か
 東京くの濱(さて)國(か)あつて見送の

○十月十日の午後三時を渡高島町南新道次第地の
 貸藏(玉置屋)旅人宿(荷物)を付てさる馬で
 門端(繋き)あは馬主(用達)へ行つて折つ
 子供(惡遊)に石と投ると
 馬(あ)とさる土藏(漆)を
 大下水(伴)細(わ)されてトキと落
 音(道)階(の)やト馬
 そび出(て)てさる
 其混雑(は)馬(上)り
 わとうて種(ご)氣
 を掻(き)引(け)てさる
 りれと五時過ぎ(で)かつても揚(ら)げ
 景(と)切(て)さるあつて
 上(と)通(り)つとる

三枚價六銭

應
 雲
 京
 國
 圖
 志